《なんば・天王寺・あべの地区》の緑化等の方針（案）

資料６

地区の概況

関西国際空港に直結する主要交通結節点であるとともに、多様な商業施設や観光資源が集結しており、国内外からの来訪者の玄関口として多くの人が訪れている。また、難波・湊町地域及び阿倍野地域は「都市再生緊急整備地域」に指定されており、難波・湊町地域ではビジネス・商業・文化などの多機能複合市街地の形成や交通拠点機能の強化、阿倍野地域では商業・ビジネス機能と居住機能の充実によるにぎわいのあるまちづくりが進められている。

本地区では、大阪ミナミの玄関口となるなんば各駅周辺の＜なんばエリア＞と天王寺駅を中心に天王寺公園の機能充実とまちの魅力づくりの一体化を図っている＜天王寺・あべのエリア＞及び、その2つのエリアの中間地点である＜新今宮エリア＞の3つに設定した。

みどりの現況

＜なんばエリア＞

なんばエリアに大きな公園はなく、民間施設・なんばパークスにおいてまとまったみどりが形成されている。

エリア北部には、道頓堀川が位置し、とんぼりリバーウォークなど水辺を活かした環境整備が行われている。

＜天王寺・あべのエリア＞

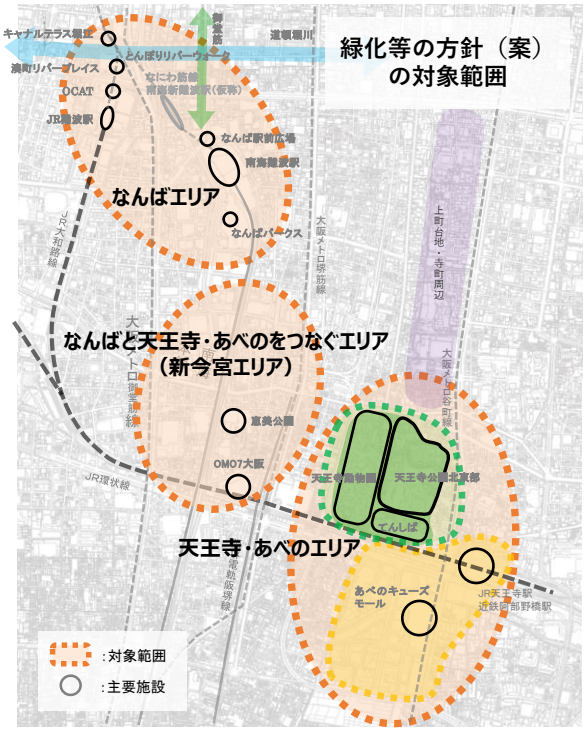
天王寺・あべのエリアには、大阪唯一の動植物公園である天王寺公園（面積約26.2ha）があり、都心部で貴重なみどり空間を創出している。また、官民連携により公園の新たな魅力を創出し、みどりあふれる文化交流拠点をめざしている。

天王寺駅周辺にはあべのハルカスやあべのキューズモールなどの商業施設等が立地し、屋上緑化や壁面緑化、あべの筋の路面電車軌道敷の芝生化など、民有地によるみどり空間が創出されている。

＜なんばと天王寺・あべのをつなぐエリア（新今宮エリア）＞

当エリアで令和４年４月にオープンしたホテル「OMO7大阪」は、建物の前面にガーデンエリアを設け、まとまったみどりを創出している。

恵美公園では、新たなにぎわいの創出のため、拡張整備に向けた民間活力の導入を進めている。



基本方針

天王寺公園を核としたみどりの拠点づくりと
なんば・天王寺・あべの・新今宮を歩いて楽しめるみどりのまちづくり

個別方針① 天王寺公園を核としたみどりの拠点づくりと機能の充実（天王寺・あべのエリア）

（１）上町台地の南端に残る大阪の歴史・文化を感じられるみどりの保全育成
（２）庭園や動物園など都心の魅力を創造し発信するみどりの創出と管理運営
（３）生物多様性に関する情報発信や環境教育の場としての機能の充実

個別方針② 駅前の広場空間とつながる居心地がよく歩いて楽しめるみどりの創出（なんばエリア）

（１）新たなシンボル空間となる駅前広場と連続したみどりの創出
（２）壁面・屋上緑化などの緑化技術を用いたみどりの演出と
　　生き物の移動を支えるみどりのネットワークの形成

個別方針③ にぎわいがつながり楽しく回遊できる新たなみどりの創出（新今宮エリア）

（１）安全性や防災性の確保だけでなく多様な世代が利用でき、地域のコミュニティ醸成やにぎわい創出の場となる公園等の創出
（２）新たなみどり空間を拠点としたにぎわいの創出とまちづくりと連動したにぎわいの波及と回遊性の向上

（注）本方針（案）における「みどり」は、樹木や公園、水辺、オープンスペースなど、緑に関する広い概念を指しています。